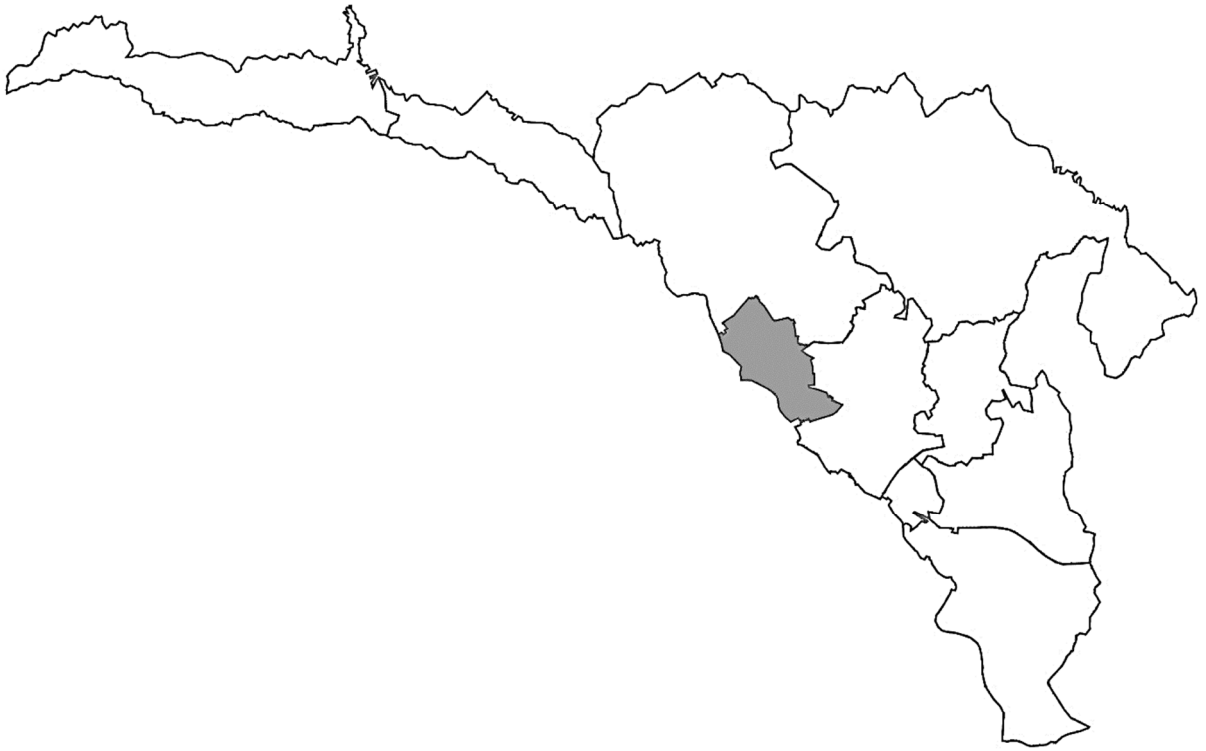


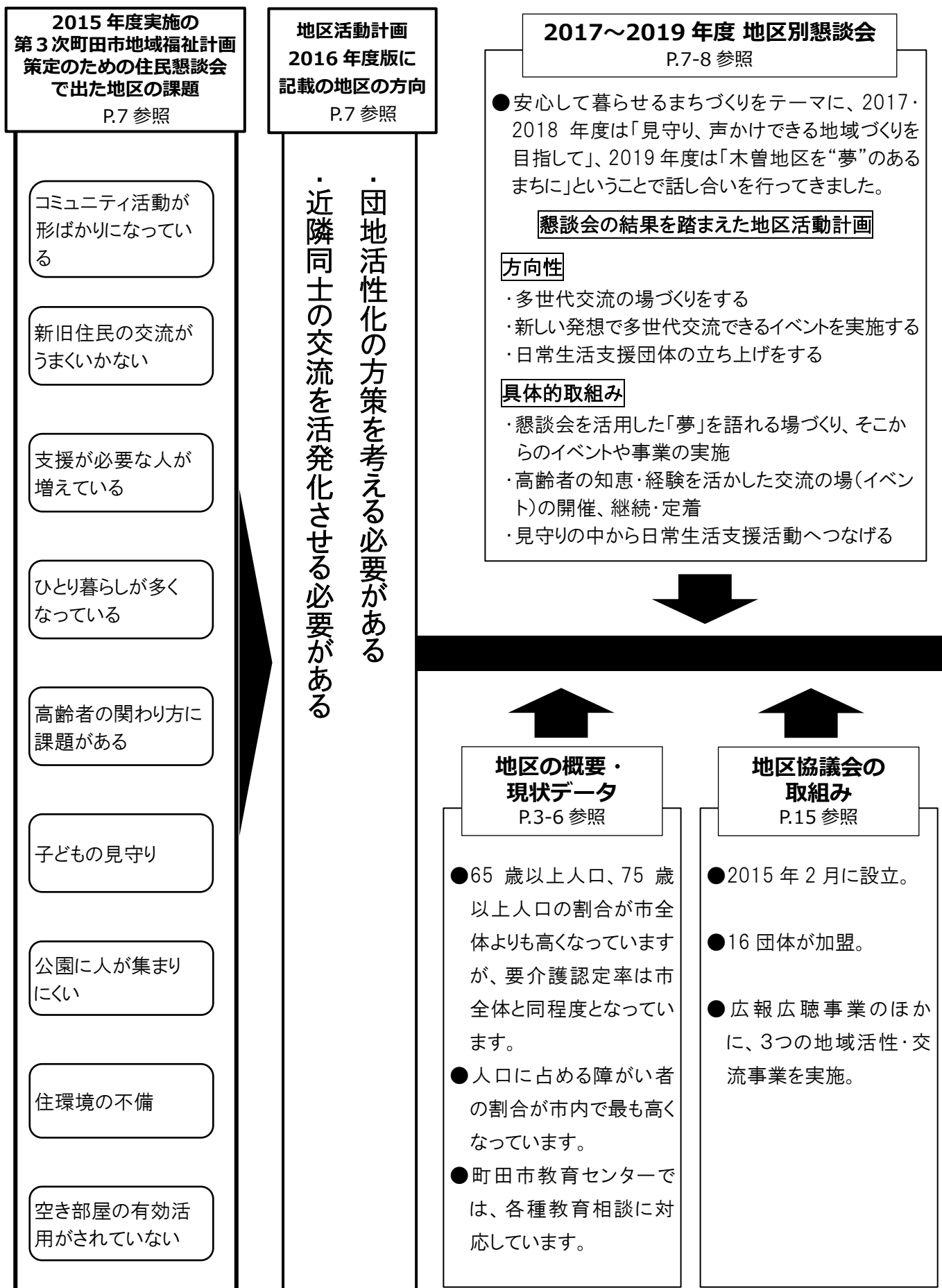
木曽地区 基 礎 資 料



2022 年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020 年度
地区別アンケート**
P.9-13 参照

コロナ禍における活動について

- コロナ禍以前と比べて、イベントや会議が中止・縮小しているものの、活動を継続できている団体は7割弱です。
- 電話や訪問といった従来の手法に加えて、オンラインツールを活用してつながりができ始めています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

コロナ禍でも開催できるイベントや交流を開催します。

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.14 参照

- 「三家宿ふるさと和楽」が、多世代が楽しめる交流の場になっています。

**タウンミーティング
の結果** P.21 参照

**住みたい(なりたい)
まちの姿について**

- 「団地」「子ども」「若い人」に関連する意見が多くなっています。
(活性化、居場所、職場等)

**過去5年間の取組み等を踏まえ
見えてきたこと**

①子どもから高齢者まで、地域の皆が気軽に集まることのできる居場所づくり

- ・「三家宿ふるさと和楽」が、多世代が楽しめる交流の場になっています。
- ・タウンミーティングでは、団地の活性化とともに、子どもの居場所づくり、若い世代への世代交代等の意見が出ていました。
- ・市民アンケートでは、住民同士の協力関係を作るために必要なこととして、気軽に集まれる場所をつくることを挙げた方が半数以上になっています。
- ・2016 年度の地区の方向として、団地の活性化の検討が必要とされ、一部その取組みが始っています。
- 以上のことから、子どもから高齢者まで気軽に集まることのできる居場所づくりについて、団地内も含めて検討していくことが重要です。

②多世代だれもが情報を受け取り、活動の相談や支援を受けることができる機能や場の検討

- ・地区別アンケートでは、コロナ禍においてオンラインツールを活用した新しいつながりが生まれています。
- ・市民アンケート調査では、ボランティア活動に参加している割合は低いものの、住民同士の協力関係が必要と考える人は多く、活動の相談や支援が受けられること、情報提供を求める人が多くなっています。
- ・地区別懇談会では、新しい発想で、多世代交流できるイベントを開催するという方向性が示されています。
- 以上のことから、多世代だれもが情報を受け取り、活動の相談や支援が受けられる機能や場づくりが重要であり、そこから新しい発想のイベントが生まれることが望まれます。

市民アンケート調査
P.16-20 参照

- 住まいの形態は一戸建てが5割台、公営住宅が3割台となっており、近所づきあいについては、生活面で協力しあっている人の割合は全体より低くなっていますが、日常的に立ち話をする程度の割合は高くなっています。
- 地域の暮らしやすさについては、近所づきあい、町内会・自治会活動、ボランティア活動、地域の防犯・防災体制、地域の保健・福祉の相談体制すべてで全体より低くなっています。満足度が低い項目で重要なことと考えているのは、防犯体制、相談体制です。
- 地域の活動等への満足度は低いものの、住民同士の協力関係が必要と考える人の割合は全体より高く、そのために必要なこととして気軽に集まれる場所、地域活動の相談や支援が受けられることが多くなっています。
- ボランティア活動をしている割合は全体を下回っていますが、参加していない理由について忙しいとする割合は全体より低く、興味ある活動がない、情報がないが多くなっています。また、活動しやすくなる条件では、仲間や友人、身体的負担が少ない、家の近く、情報提供があるが多くなっています。

2. 地区の概要・現状データ

＜木曽地区の該当町名＞

木曽町、木曽西 1～5 丁目、木曽東 1～4 丁目

（１）５年間の地区の変化と市全体との比較

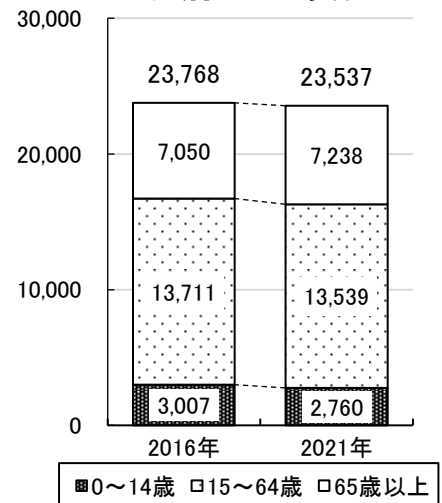
＜５年間の地区の変化＞

- 75歳以上人口の増加（P.4「人口」参照）
- 要介護認定者数の増加（P.4「要介護認定者数」参照）
- 障がい者数の増加（P.4「障がい者数」参照）

＜町田市全体との比較＞

- 市全体より障がい者手帳所持者数が多い
(P.4「障がい者数」参照)
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率が低下している
(P.4「町内会・自治会」参照)

地区別人口の変化



（２）木曽地区の概要

＜人口＞（2021年10月1日現在）

- 23,537人
(14歳以下の割合：11.7%、65歳以上の割合：30.8%)

＜特徴＞

- 境川沿いの散策路を身近に楽しむことができ、自然と共に暮らすことができる地域である。
- 65歳以上人口、75歳以上人口の割合が市全体よりも高くなっていますが、要介護認定率は市全体と同程度となっている。
- 人口に占める障がい者の割合が市内で最も高くなっている。
- 地区内には、木曽住宅、境川住宅と町田第二地区にまたがる町田木曽住宅の3つの団地があります。2021年1月1日現在の団地人口の合計は11,513人となっています。

＜主な資源＞

- ・高校・大学：高校1校
- ・あんしん相談室：1か所
- ・子どもクラブ：1か所
- ・町田市教育センター：1か所

(3) 木曽地区の現状データ

		木曽地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	23,768人	23,537人	428,203人	430,607人
	0～14歳	3,007人 (12.7%)	2,760人 (11.7%)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (12.0%)
	15～64歳	13,711人 (57.7%)	13,539人 (57.5%)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (60.9%)
	65歳以上	7,050人 (29.7%)	7,238人 (30.8%)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (27.1%)
	75歳以上（再掲）	<u>3,557人</u> (15.0%)	<u>4,163人</u> (17.7%)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	11,655世帯	12,058世帯	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	2.04人	1.95人	2.23人	2.12人
要介護認定者数	要支援1	184人	269人	2,773人	4,170人
	要支援2	150人	170人	2,057人	2,500人
	要介護1	285人	381人	4,327人	5,435人
	要介護2	228人	215人	3,398人	3,411人
	要介護3	125人	185人	2,394人	2,734人
	要介護4	134人	162人	2,224人	2,841人
	要介護5	116人	114人	2,057人	2,131人
	合計	<u>1,222人</u>	<u>1,496人</u>	19,230人	23,222人
	参考:要介護認定率 ※1	17.3%	20.7%	17.4%	19.9%
認知症高齢者数 ※2		583人	470人 ※6	10,040人	7,286人 ※6
障がい者数 ※3	身体障がい	833人	805人	11,808人	11,544人
	知的障がい	183人	216人	3,117人	3,253人
	精神障がい	258人	413人	3,698人	5,378人
	合計	<u>1,274人</u>	<u>1,434人</u>	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	<u>5.4%</u>	<u>6.1%</u>	4.3%	<u>4.7%</u>
自治会 ※4・町内会	団体数	17	16	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	5,738世帯	5,046世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	<u>49.6%</u>	<u>42.0%</u>	47.0% (54.3%)	41.6% (48.8%)
団地	参考：団地人口 ※5	12,591人	11,582人	36,225人	32,997人
	参考：団地世帯 ※5	7,669世帯	7,524世帯	20,525世帯	19,905世帯

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）（総人口には年齢不詳1人を含む。）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在／2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

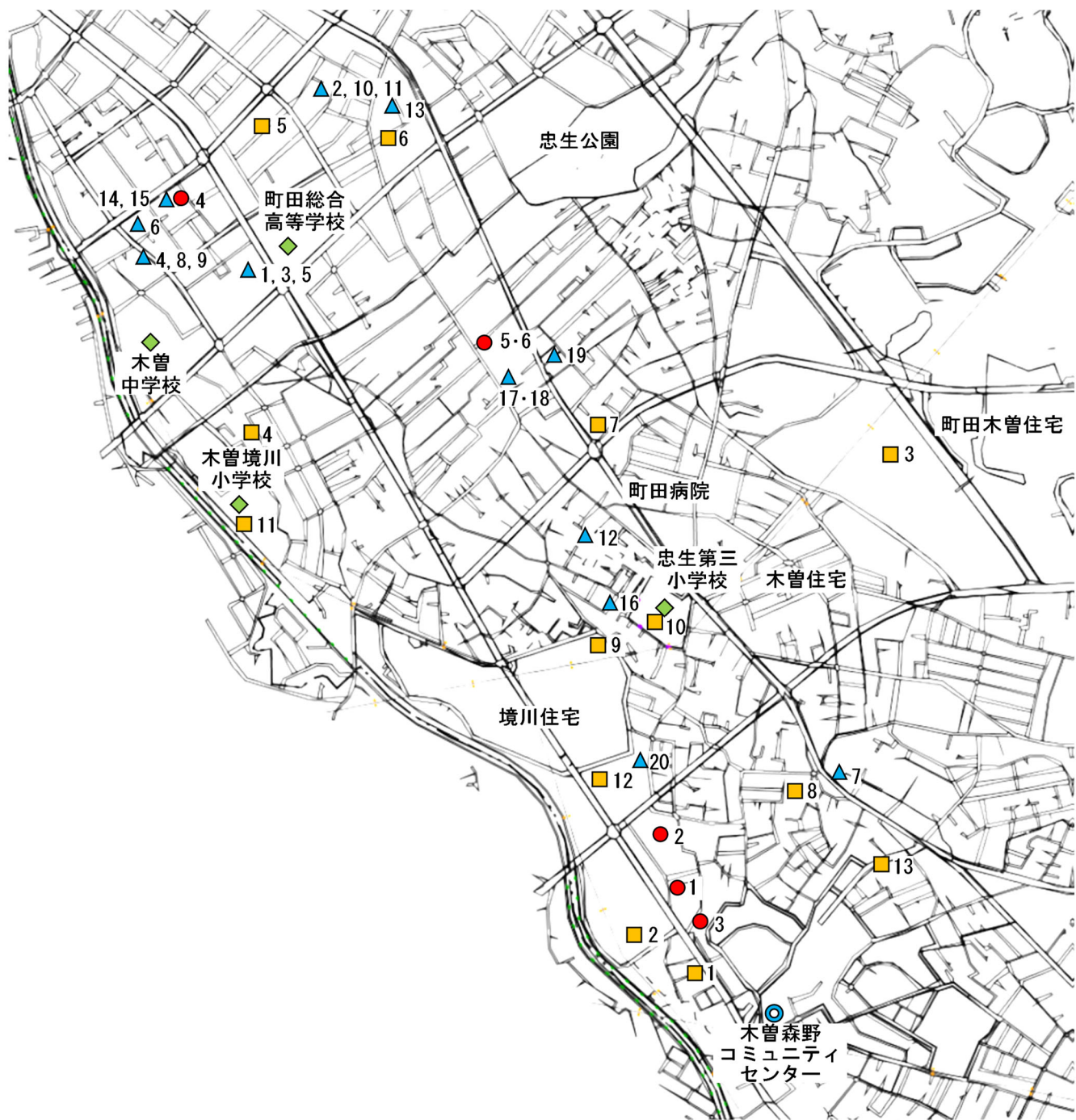
※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 各年10月1日現在。木曽地区の数値は、該当町名を含む団地人口・世帯の合計（木曽住宅（木曽東4丁目）、境川住宅（木曽東2・3丁目）、町田木曽住宅（本町田・木曽東4丁目））。市全体は、東京都住宅供給公社と都市再生機構の団地人口・世帯の合計。

※6 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<保育園>

- 1 すずらん保育園
- 2 すみれ保育園
- 3 木曽保育園
- 4 ひかりの子保育園(本園)
- 5 ひかりの子保育園(分園)
- 6 アスク木曽西保育園
- 7 第二わかくさ保育園

<認定こども園>

- 8 認定こども園 境川幼稚園
- 9 認定こども園 きそ幼稚園

<学童保育クラブ>

- 10 木曽学童保育クラブ
- 11 木曽境川学童保育クラブ

<その他>

- 12 町田市教育センター

<子どもセンター・子どもクラブ>

- 13 木曽子どもクラブ きそっち

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 木曽あんしん相談室

<認知症グループホーム>

- 2 木曽東グループホーム園

<有料老人ホーム(特定施設)>

- 3 エルダーホームケア町田

<有料老人ホーム(住宅型)>

- 4 高齢者住宅わかば

<看護小規模多機能型居宅介護>

- 5 看護小規模多機能型居宅介護ハーモニー

<在宅医療・介護連携機能強化型地域包括支援センター>

- 6 医療と介護の連携支援センター

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

<相談支援>

- 1 相談支援センター ポンテ

<短期入所(ショートステイ)>

- 2 であい

<生活介護(通所)>

- 3 生活介護事業なないろ
- 4 ボワ・アルモニー 分場

<就労移行・継続支援>

- 5 就労継続支援事業B型 なないろ
- 6 ボワ・アルモニー
- 7 サエラ

<共同生活援助(グループホーム)>

- 8 ボワ・ミニヨン
- 9 ボワ・クレール
- 10 あかね
- 11 であい
- 12 ホーム・ゆい
- 13 ひなた
- 14 みおん
- 15 わおん
- 16 希望の樹ゆず
- 17 グループホームわおん町田ひろば1
- 18 グループホームわおん町田ひろば2
- 19 グループホームわおん町田ひろば3
- 20 グループホームわおん木曽東1号館

【資源マップ上記載の凡例】

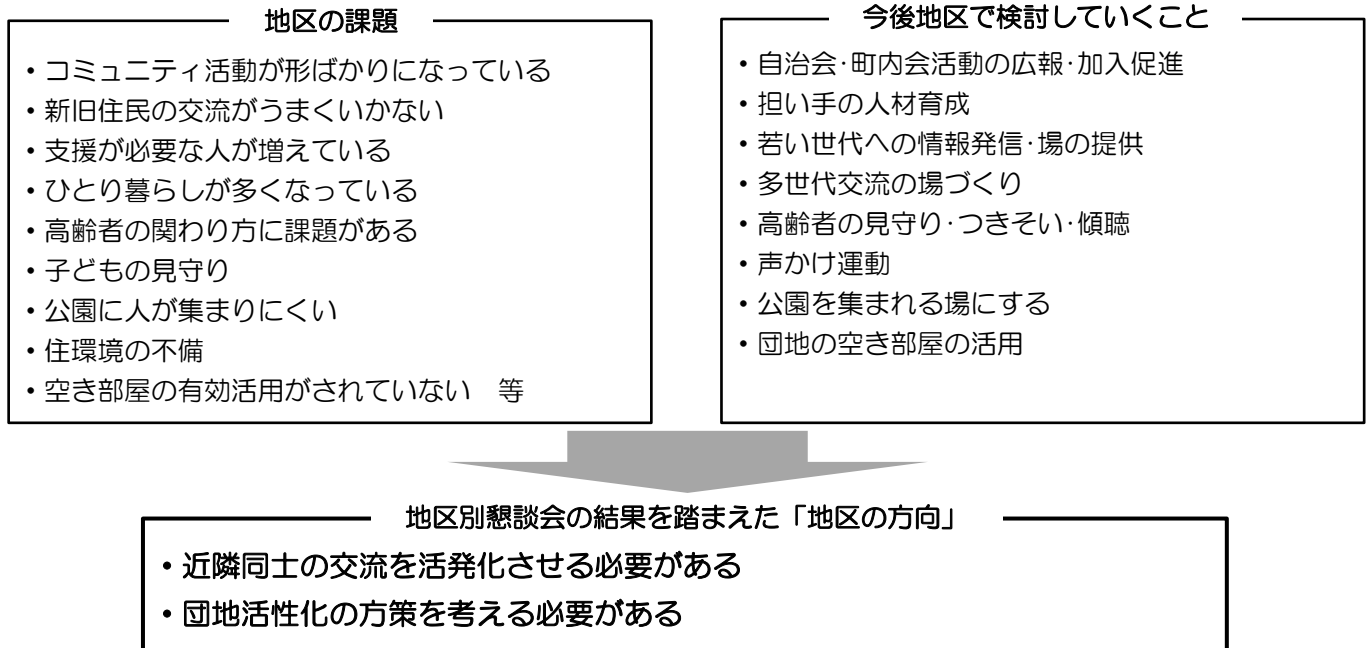
●教育施設(◆)

●その他の公共施設(◎)

4. 地区別懇談会の経過

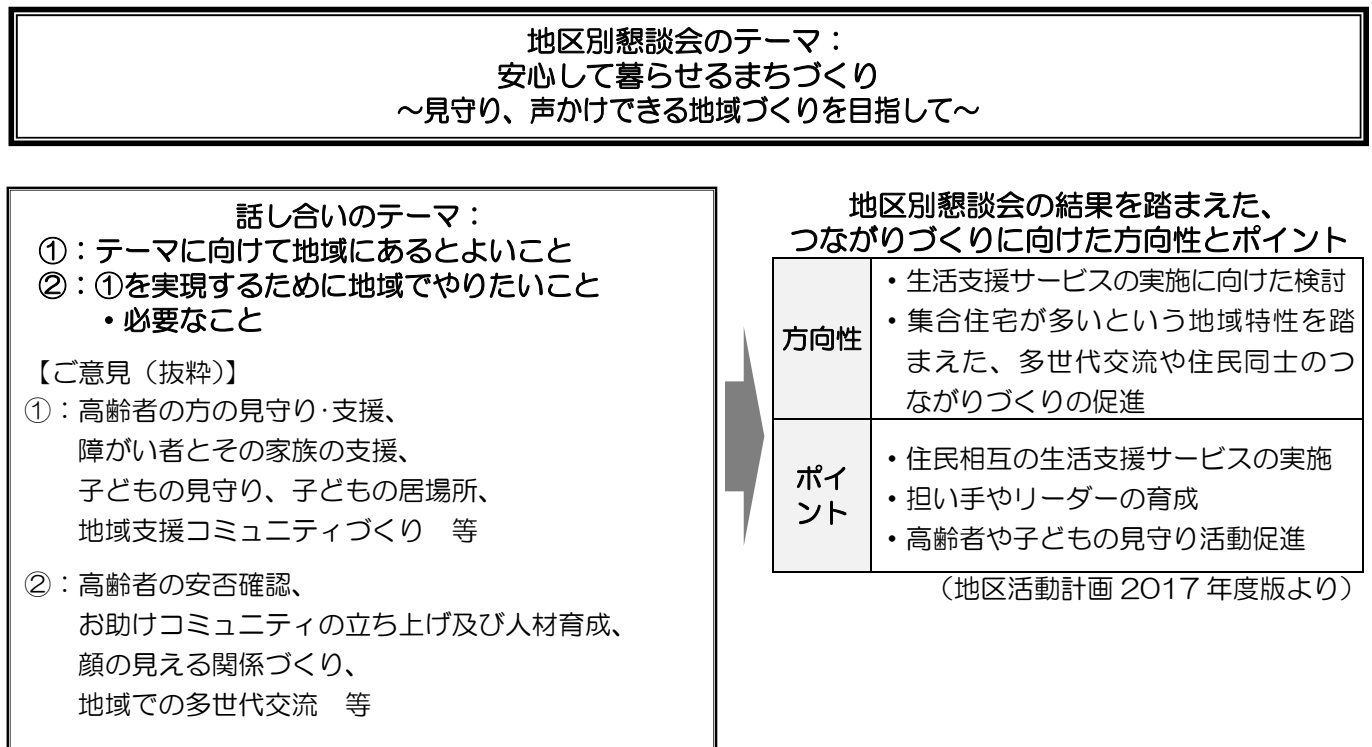
(1) 木曽地区 地区別懇談会

① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）



※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会



③ 2018 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
安心して暮らせるまちづくり
～見守り、声かけできる地域づくりを目指して～

話し合いのテーマ：

- ①：ご近所で気になること・困ったこと
- ②：自分ができそうなこと・みんな（地域）でやれそうなこと

【ご意見（抜粋）】

- ①：コミュニケーションの不足、
地域のつながりの希薄化、
地域の担い手が足りない、
子どもとの交流、若い人とのつながり、
買い物・生活支援、移動で困っている、
気になる高齢者 等
- ②：顔の見える関係づくり、
高齢者の知恵・経験を活かした子どもとの交流の場、
イベントのアイデア、
地域のおじいちゃん・おばあちゃんになる、
見守りからはじまるお助け隊 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	・日常生活支援（お助け隊）団体の立ち上げ ・多世代交流の場づくり
具体的取組み	・高齢者の知恵・経験を活かした交流の場（イベント）を開催し、継続・定着させる ・見守りの中から日常生活支援活動（御用聞き）へつなげる

（地区活動計画 2018 年度版より）

2018 年度の地区別懇談会は、助け合いについて理解を深めていただくために、はじめにカードを使ったゲームを行いました。



④ 2019 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
安心して暮らせるまちづくり
～木曽地区を“夢”のあるまちに～

話し合いのテーマ：

- ①：参加したことがあるイベント
- ②：見てみたい！参加してみたいイベント
または やってみたいイベント

【ご意見（抜粋）】

- ・多世代交流：
昔遊び、おいしいことはみんな集まる 等
- ・イベント：
みんなが参加できるイベント、場所 等
- ・子どもの居場所：
子どもの遊び場、親へのアプローチ 等
- ・地域の見守り：
声かけ、見守り、気づき 等
- ・日常生活支援：
あいさつ話を聞く→見守り、
ちょっとした家のこと、災害時の助け合い 等
- ・地域の情報発信：
機会の提供、気軽にできること 等
- ・木曽地区の夢を語る：
つながり、団地の活性化、
誰にとってもやさしいまち 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、
今後の方向性と具体的取組み

方向性	・新しい発想で、多世代交流できるイベントを開催します。
具体的取組み	・地区別懇談会を木曽地区らしい「夢」を語れる場づくりをし、イベントや事業へつなげていきます。

（地区活動計画 2019 年度版より）

2019 年度の地区別懇談会は、従来の地域の課題を出して話し合いを行う形ではなく、木曽地区の未来をみんなで考える場として開催しました。7つのグループから興味のあるグループに参加者に入ってもらい話し合いを行いました。

⑤ 2020 年度 木曽地区 コロナ禍における活動についてのアンケート

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 10 地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。
当アンケート調査では、コロナ禍における地域活動の状況等を聞いています。

【回答者の基本属性】

図表 回答者の所属団体（複数回答）

	44件回答
1 町内会・自治会	21人
2 民生委員・児童委員	10人
3 青少年健全育成地区委員会	9人
4 NPO法人	3人
5 ボランティア団体	5人
6 ふれあいサロン・子育てサロン	4人
7 小・中学校	6人
8 小・中学校PTA	0人
9 老人クラブ	10人
10 障がい当事者会・家族会	1人
11 社会福祉法人	4人
12 保育園・幼稚園	3人
13 高校・大学	1人
14 地区協議会	8人
15 自主グループ	4人
16 その他	5人
無回答	2人

【地区別懇談会についてのご意見】

●参加しやすい日時

「土曜日の午後」が最も多く、次に「平日（月曜～金曜）の午後」が多くなっています。

図表 参加しやすい日時（複数回答）

	44件回答
1 平日（月曜～金曜）の午前	20.5%
2 平日（月曜～金曜）の午後	25.0%
3 土曜日の午前	22.7%
4 土曜日の午後	36.4%
5 日曜・祝日の午前	11.4%
6 日曜・祝日の午後	18.2%
無回答	15.9%

●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ（自由回答の抜粋）

<担い手>

- ・若い方達に地域に関わってもらうには何が必要なのか。
- ・活動の担い手を増やす為には、何が必要か。

<地域活動>

- ・コロナ禍でもできる地域活動について。
- ・オンラインを使った地域活動について。
- ・オンライン講習。
- ・それぞれが所属する団体の活動をテーマに活性化に向けての意見を聞く機会が欲しい。
- ・他の町内会・自治会での活動成功事例をいつでも見られる場がほしい。

<高齢者への支援>

- ・孤独死防止のためのご近所づくり。
- ・認知症の人が安心して買い物ができる場所など。

<防災>

- ・防災の取組み。

<地区別懇談会について>

- ・グループホームや障がい者施設など今では地域の身近な場所に多くあるが、意外とその存在を知らない人が多いので、皆が知る機会になれば良いかなと思う。

●今後の町内会・自治会のあり方として望むこと（自由回答の抜粋）

<活動の方向>

- ・役員会議の会議行動ではなく、実行動体の行動主体の活動を指向する方向性の確認。

<若い人の参加>

- ・コロナ以前から思っていたことは、メンバーの若返りが必要だということです。魅力ある地域作りに若い人の考えを取り入れなくては、地域は発展しないでしょう。
- ・自治会活動がなぜ必要かを若い人に知ってもらいたいことと、若い世帯が必要ないと思っているのはどうしてなのかを話し合いたい。

<行事>

- ・伝統ある地域の行事はなくすべきではないが、小規模な仕組みでやっていけたらと思う。

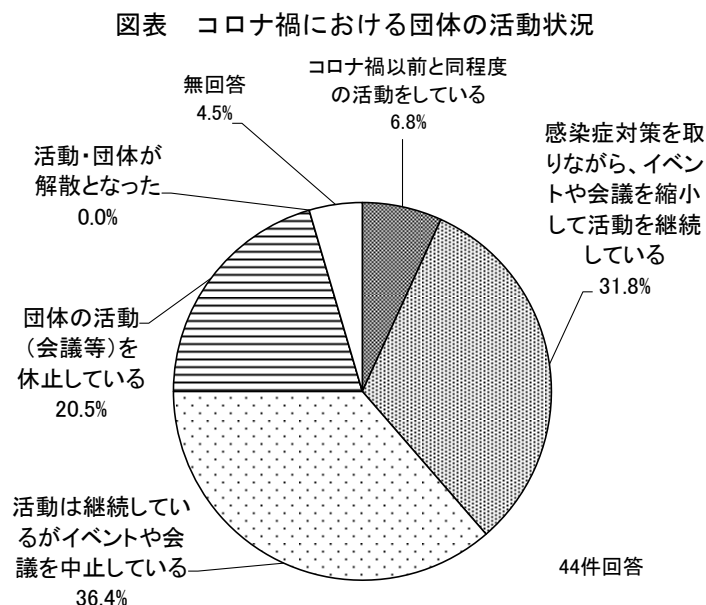
<情報共有・提供>

- ・オンラインを使った情報共有の方法を確立する必要があると思いました。
- ・町内会への加入が減っている。町内会の活動を見られるように考えて欲しい。
- ・鶴川地区のようなホームページやLINEの活用
- ・町内会・自治会はやはりオンラインではなく顔を合わせ、声をかけたい。
- ・ゆるやかなデジタル化。急がずに地道にスマホ教室などを町内会で継続する。若者・子育て世代・高齢者がともにゆっくりとデジタル化と一緒に歩む。小さな声も認識し合うコミュニティができればいい。

【コロナ禍における地域活動の状況について】

●コロナ禍における団体の活動状況

イベントや会議を中止または縮小しているものの、活動を継続できている団体は7割弱となっています。



●コロナ禍での活動でつながりを絶やさないための工夫（自由回答の抜粋）

<電話・訪問等>

- ・1ヶ月に1回長期欠席者には電話または訪問して本人の安否確認をしています。
- ・会議だけの枠以外で、戸外の立ち話や、役員1人1人への接触をもって、モチベーションを維持できるよう心掛けました。
- ・気になる方に訪問や電話で連絡している。
- ・参加していただいた方々にお手紙を出しました。
- ・町内で人を見かけたらソーシャルディスタンスを保ちつつ積極的に声かけする。
- ・民生児童委員として担当地区の方からの相談などはコロナと関係なく、いつもと同じ対応をしています。

<ICT>

- ・LINE等のツールを使って情報共有。
- ・Zoomでの会議に参加している。

<コロナ対策>

- ・世の中で不安要素となったマスク・アルコール等を近隣の方々に無償で配布して地域貢献ができた。

●活動ができない中での心配ごと（自由回答の抜粋）

<担い手>

- ・活動主体である仲間の体力／気力維持をどのようにしていくべきか、健康的身体、精神の保持を念頭において模索しております。
- ・担い手の減少。
- ・情報共有はしているが、団結力が弱くなったのではないかと心配。

<活動の停滞>

- ・年間で予定していた計画が思うように進められないこと。
- ・会員離れ（行事ができない為）。

<行動制限>

- ・一人暮らしの人の訪問が出来ず、様子が分からない。
- ・会館が使用出来ないで屋外のみになり、集まって話し合うことが出来なくなりさみしい。
- ・マスクをしていることで地域の方々の顔や、人物の特定、顔色、表情などがわからなくなった。
- ・先方が訪問、ふれあいを敬遠する傾向がある。

<ICT>

- ・パソコンやケータイでZoomができない会員が孤立しないようにしたい（特に高齢の方）。

●オンラインの活用について（自由回答の抜粋）

<有効性>

- ・現時点では有効な交流システムだと思います。対面のような深みを求めることよりは無理だとしても活用してもよいのではないのでしょうか。
- ・ツールが苦手な方がいたので、オンライン会議はしませんでした。ただし、LINEグループを作成し連絡用として活用はしていました。
- ・リモート会議に参加したり、研修を受けている。打ち合わせや説明会なども対面だけでなく、ZoomやYouTubeなどを活用している。

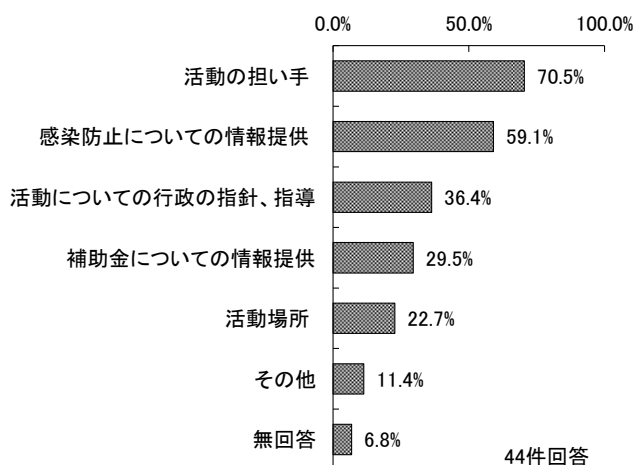
<普及に向けた課題>

- ・今の状況が続くなかで、リモート会議等の必要な事は感じていますが、体制が整っていません。
- ・会員の年代幅が広くだれでも参加できる程普及してはいない。会議のオンライン開催は会議の一つのツールにはなるが公平感が保てない。デジタル弱者はいる。そこを取り残すことなく活用できるなら利用したい。
- ・Wi-Fiやタブレット、PCの環境を整える必要があるので、必要性和投資のバランスが個人によって違うのでハードルが高いです。
- ・市のホームページ内で町内会単位の情報発信のページを作れないのでしょうか。

●再開・継続していくために必要なこと

再開・継続していくために必要なこととしては、「活動の担い手」、「感染防止についての情報提供」との回答が多くなっています。

図表 再開・継続していくために必要なこと（複数回答）



●コロナ禍での嬉しかった変化、新たな発見（自由回答の抜粋）

<対面での活動・交流の再認識>

- ・人に会えない状況があったからこそ、普段の地域活動がとても重要なことであると再認識できたこと。
- ・今年度はすべてのイベントが中止となり、改めてイベント出店等を通じての会員同志の交流、つながりが大切なものであったか認識できた。
- ・人と会うこと、話すことの大切さがわかったこと。

<コロナ対策でのふれあい>

- ・盆踊り等のイベント予算を、コロナ対策に振り替えて、不織布マスクや手洗い用洗剤を購入し、全会員に配布しました。日ごろ顔を合わせない会員の方々とふれあうことができて良かったと思います。
- ・Zoomで新しい方とお知り合いになれた。
- ・高齢者の見守りで訪問し、話すことはできないのでお知らせをポスト投函したら、電話をしてくださる方が何人かいたこと。
- ・地域の方が、アルコール消毒液が足りているかなど、心配し提供して下さったこと。
- ・野外でのサツマ掘りを実施したが、例年になく多くの保護者が参加した。

<余暇の増加>

- ・自分自身に余暇的な時間が増えて良かったと思う。（民生委員としての立場から）自分達の住んでいるこの町田市には、良い場所（公園・緑地・山など）がたくさんある事の発見をした。

●コロナ禍でも大切にしたい活動（自由回答の抜粋）

<交流>

- ・つながりづくり。
- ・毎日のあいさつの交流。
- ・距離を取る事は大切かもしれないが、心が触れ合えるような活動

<行事・イベント>

- ・各種イベント。
- ・当団地での伝統的な催しと自治会行事。
- ・盆踊り、どんど焼き等、自治会のコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・子どもたちの成長が感じられるような行事。

<生活支援>

- ・日常生活支援

<見守り>

- ・ひとり親、孤立している高齢者への声かけ。
- ・児童登校時の交差点での見守り。
- ・見守り活動。

<災害対策>

- ・安心して暮せる地域作り、災害に強い組織作り。

<その他>

- ・活動仲間の健康と結束力を高める活動。
- ・子どもたちや保護者の笑顔がたくさん見られる活動。

●これから取り組みたい活動（自由回答の抜粋）

<行事・イベント>

- ・積極的にイベントに参加していく。

<情報>

- ・オンラインを活用した情報共有（掲示板や回覧板のデジタル化等）。
- ・行政の情報を100%活用できる体制づくり。

<交流・繋がり>

- ・地域の方やお年寄りと触れ合えるような活動。
- ・人との繋がり。

<防災>

- ・防災意識の向上。

<その他>

- ・地元を誇りに思う活動。文化芸術を大切にする活動。新しく会社をはじめようとする方を応援する活動。

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	・コロナ禍でも開催できるイベントや交流を開催します。
具体的取組み	・オンラインを活用した情報共有、交流や日常生活支援について地区別懇談会で検討していきます。

（地区活動計画 2020 年度版より）

(2) 5年間を通して生まれた取組み

- 2018年度の地区別懇談会では、カードを使った助け合いゲームや「境川団地見守り支援ネットワーク」、「まちの保健室」の取組み事例を通じて、自分や地域でできること、できそうなことを話し合いました。日々、見守り活動に取り組む中でちょっとしたお困りごとを住民同士で支える仕組みの必要性を感じ、「生活支援活動を立ち上げたい」という声が境川団地エリアであがりました。また、同じように思いをもった境川自治会、木曽町中原自治会、滝の沢自治会エリアでは、連携して取組みを進めていこうという動きが見受けられました。
- 2019年度の地区別懇談会での「水かけ祭り」の事例紹介を通じて、複数ある既存の行事を兼ね合わせるという発想を共有することができ、今後の新しい発想をもった多世代交流の場づくりの創出に向け、既存の形に捉われない柔軟な発想の在り方を周知しました。
- 「三家宿ふるさと和楽」のオーナーからは、「自分たちのスペースをもっと地域の人に使ってもらいたい」という思いを聞き、2019年度の地区別懇談会でオーナーの思いや拠点の情報を紹介しました。「地域のみんなでつくっていく」ことを大切に、現在は、若い世代の方も関わりながら、子ども向けのワークショップやフリーマーケットを行うなど、多世代が楽しめる交流の場となっています。
- コロナ禍でのつながりを継続する取組みとして、木曽森野都営A棟では、何ができるかを話し合った結果、「屋外」という発想をもって、ラジオ体操を通じて顔の見える関係づくりを行っています。また、保育園や学童保育クラブの子どもたちからのメッセージを載せた絵を団地のフェンス等に掲示することにより、非対面でもつながりを感じることができました。
- ひきこもり等の社会的孤立問題への取組みの必要性を感じ、忠生第2高齢者支援センター・町田第3高齢者支援センターが中心となって、課題を抱えた家族をどのように支援していけるかを考える一助として、当事者家族が思いを語れる場の創出や専門職間の情報交換会の取組みを2020年度より開始しました。



▲ 三家宿ふるさと和楽のフリーマーケットのチラシ



▲ 三家宿ふるさと和楽のフリーマーケットの様子



▲ 木曽森野都営A棟のラジオ体操の様子

5. 地区協議会の取組み

(1) 設立日・構成団体

＜設立日＞ ●2015年2月24日（市内5地区目） ＜構成団体＞ ●木曽地区連合町内会（16町内会・自治会）、青少年健全育成忠生第三地区委員会、青少年健全育成忠生第六地区委員会、忠生第二地区民生委員児童委員協議会、木曽境川小学校、忠生第三小学校、町田第三中学校、木曽中学校、町田総合高等学校、ひかりの子保育園、町田市消防団第4分団、忠生第2高齢者支援センター、町田第1高齢者支援センター、木曽商工ネット、木曽オールスターズ、町田市社会福祉協議会（16団体）
--

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
広報広聴事業	・ 広報紙作成 ・ 地区協議会のPR	木曽地区協議会広報紙発行や事業の宣伝を通じて、地区協議会の活動のPRをすることで、地域とのつながりを意識してもらうことにより、自らも地域での活動に参加するように促していく。
地域活性・交流事業 「木曽の歴史スタンプラリー」	・ 「木曽の歴史スタンプラリー」の実施	地域の歴史や文化、商工業等を学ぶことにより、地域に対する愛着や誇りを高める。また、地域とのつながりを意識してもらうことにより、自らも地域での活動に参加するように促していくことを目的とする。あわせて健康の増進と多世代の交流を図る。
地域活性・交流事業 「防災・防犯事業」	・ 防災・防犯に関する視察研修 ・ 講演会 ・ 防災訓練・ナダレンジャーによる講習会 ・ 避難施設開設訓練の支援	防災・防犯をテーマにした事業を、地域が一体となり年間を通し取り組むことで、防災面においては、災害発生時の地域の対応能力を高め、地域の防災力の向上を図るとともに、防犯面においては、特殊詐欺被害防止等への知識を共有し、地域の防犯力を向上させる。
地域活性・交流事業 「多世代交流事業」	・ スマホ教室 ・ トップアスリート講演会	スマホ教室においては、デジタル活用に不安のある地域住民を対象として、スマホの使い方講習会を通して世代間の交流を図る。トップアスリート講演会においては、パラリンピック銀メダリストの「鹿沼由理恵選手」を講師に迎え、「新しいことに挑戦する心は誰よりも強い」の講演を通して新しいことに挑戦する子ども、大人を支援する。

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

（仮称）町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象：18歳以上の町田市内在住者 2,000人

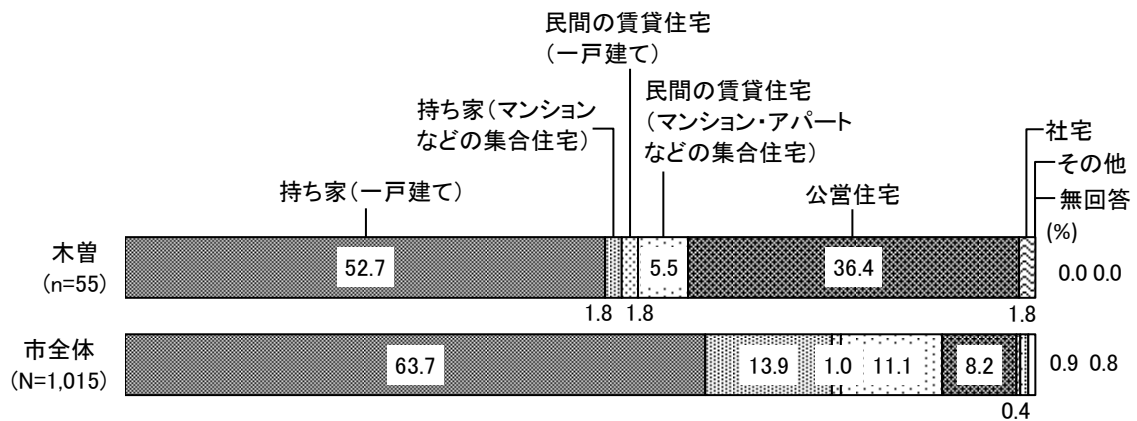
調査時期：2020年2月から3月

（1）基本属性

- 年齢は平均 58.3 歳（全体は 58.6 歳）、職業は就労していない人が 52.7%（全体は 43.8%）である。

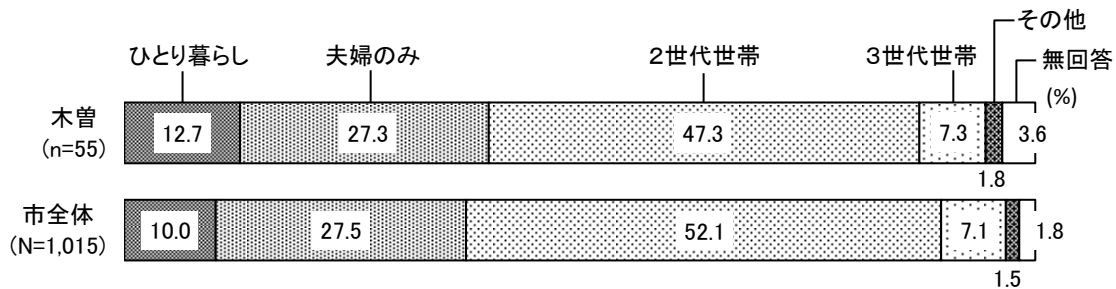
◆住まいの形態

- 住まいの形態は「公営住宅」が 36.4%と、全体に比べて顕著に高い。



◆家族構成

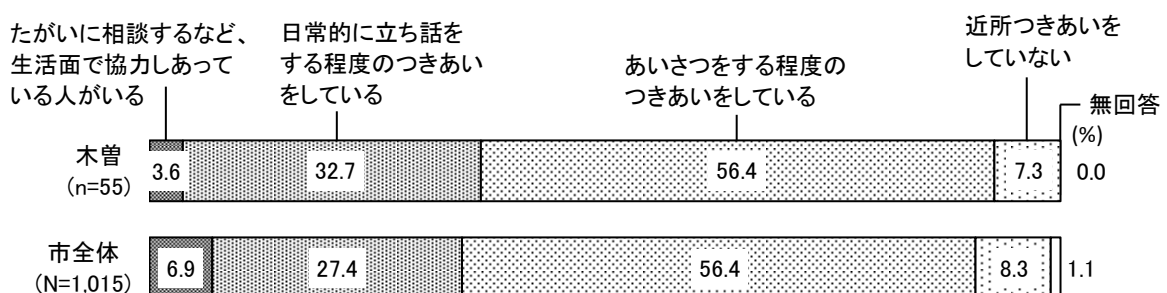
- 家族構成は、全体と比べて「ひとり暮らし」の割合が高い一方、「2世代世帯」の割合が低い。



（2）地域での暮らし

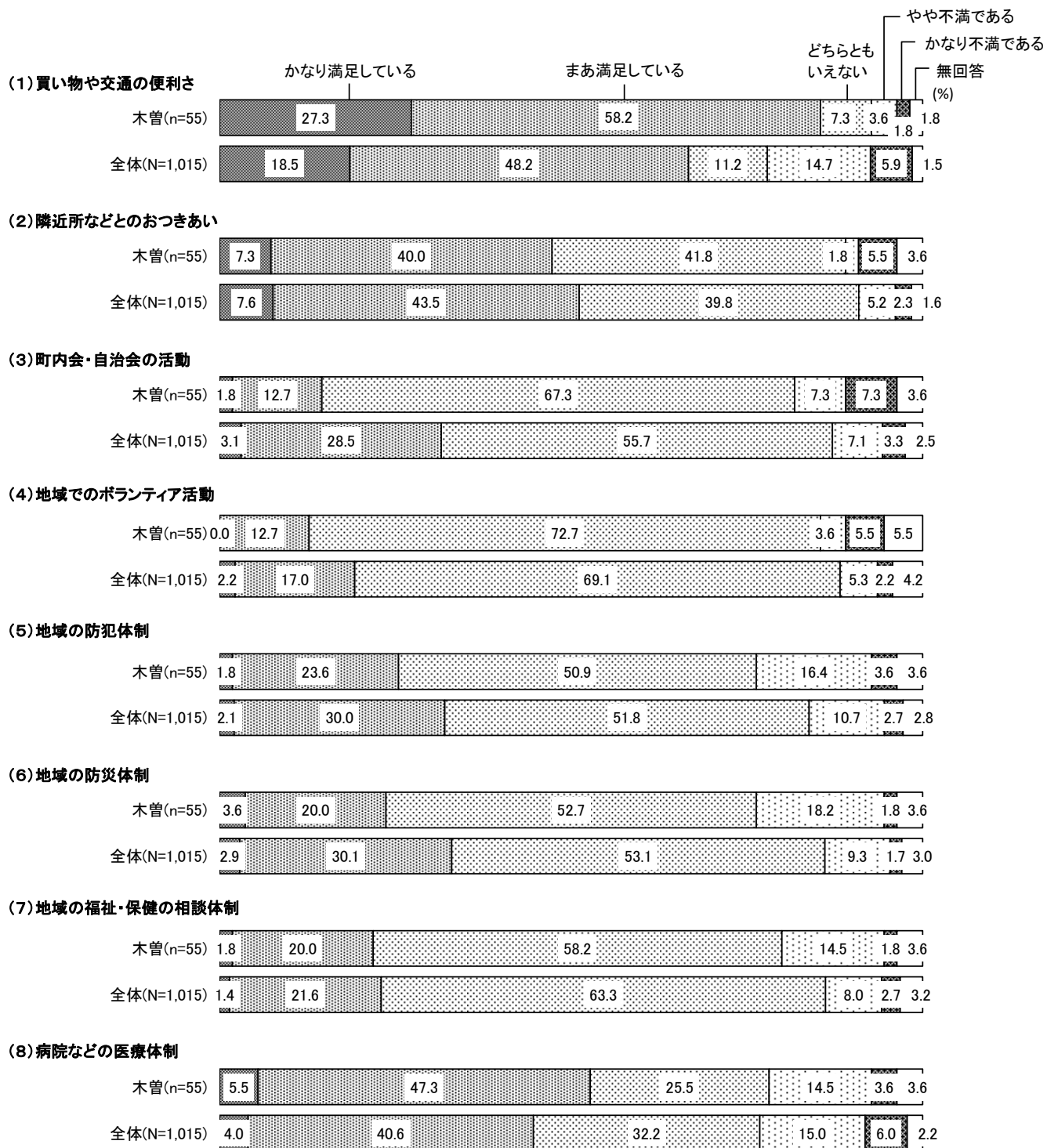
◆近所つきあいの程度

- 近所つきあいの程度は、「日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている」が全体と比べて高い。



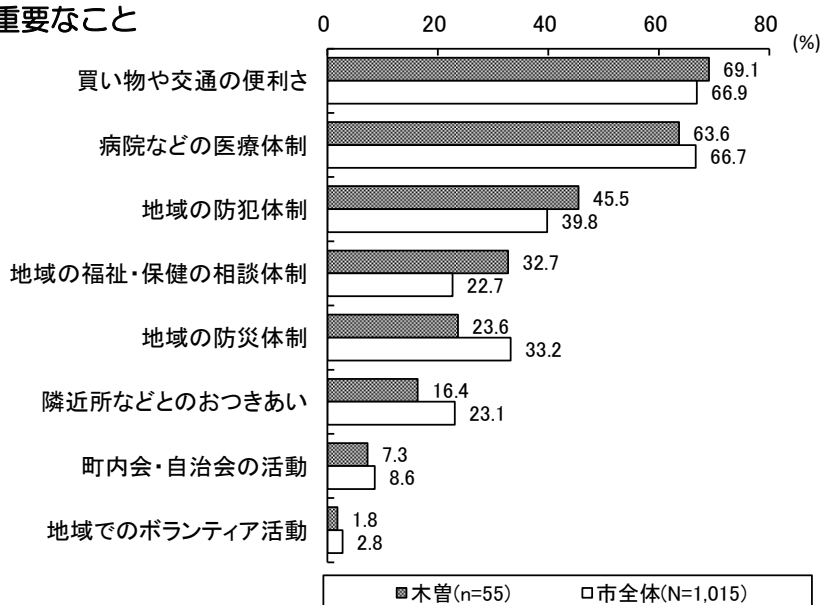
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合（満足度）は、『買い物や交通の便利さ』で高く、『地域でのボランティア活動』や『町内会・自治会の活動』で低い。
- ・ 全体との比較では、『買い物や交通の便利さ』は全体より高い一方、『町内会・自治会の活動』や『地域の防災体制』は低くなっている。



◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

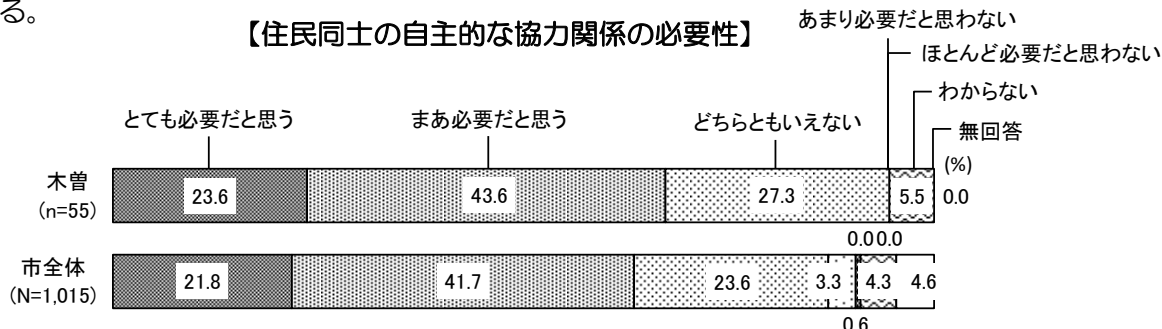
- ・ 地域で安心して暮らしていくために重要なことでは、「買い物や交通の便利さ」、「病院などの医療体制」、「地域の防犯体制」が上位3位であり、全体と同様である。
- ・ 全体と比較すると、「地域の福祉・保健の相談体制」で全体を大きく上回り、「地域の防災体制」、「隣近所などのおつきあい」は全体を大きく下回っている。



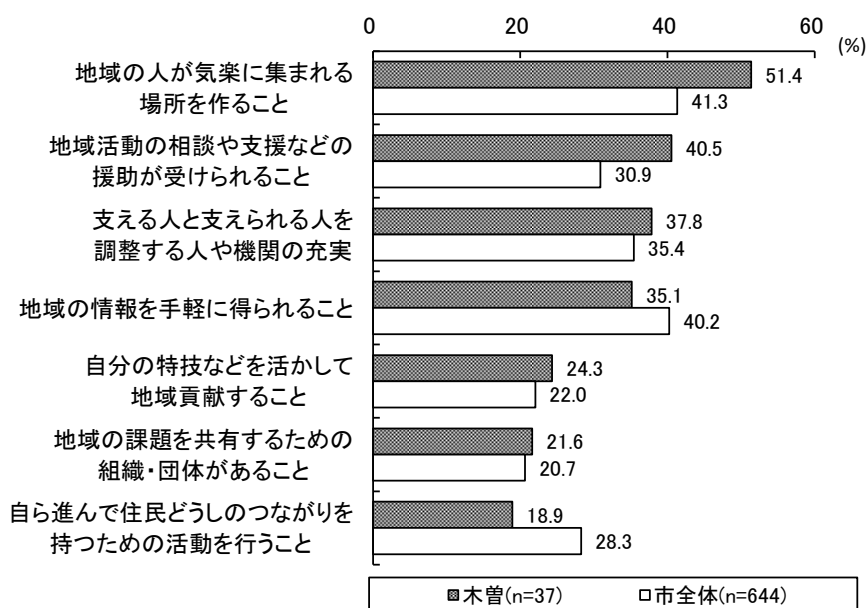
※その他、特になし、無回答はのぞく

◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- ・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性について、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」と回答した人の合計は 67.2% であり、全体を 3.7 ポイント上回っている。また、必要だと思うと回答した人に必要なことをたずねたところ、「地域の人々が気楽に集まれる場所を作ること」が最も多く、次いで「地域活動の相談や支援などの援助が受けられること」、「支える人と支えられる人を調整する人や機関の充実」が続いており、全体で2位の「地域の情報を手軽に得られること」は4位となっている。また、「自ら進んで住民どうしのつながりを持つための活動を行うこと」は全体を大きく下回っている。



【協力関係をつくるために必要なこと】＜必要だと思う人＞

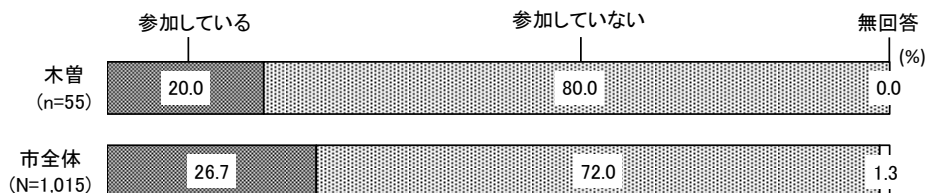


※その他、特になし、無回答はのぞく

(3) 地域活動・ボランティア活動

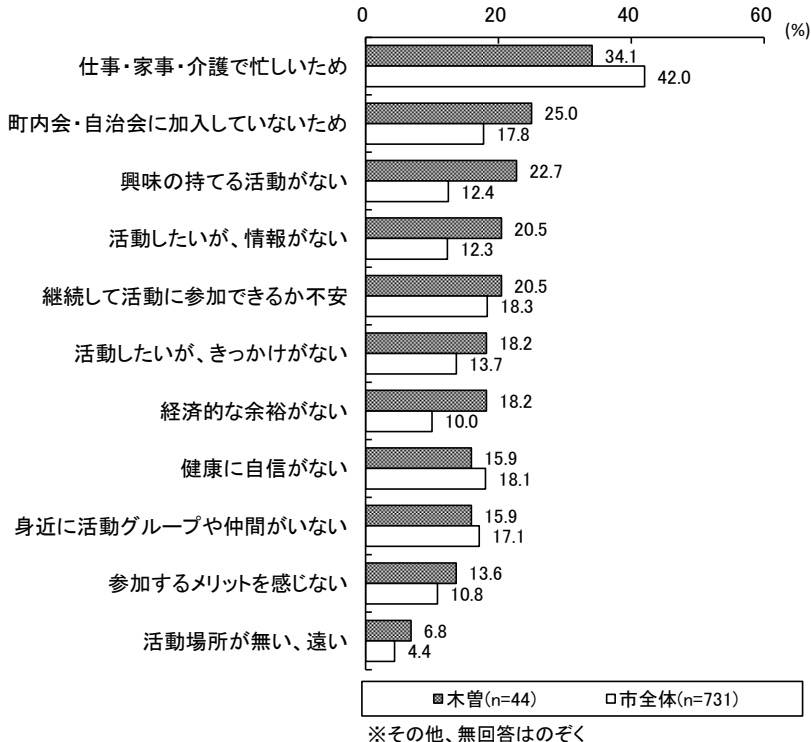
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動に参加している人は、20.0%であり、全体を 6.7 ポイント下回っている。



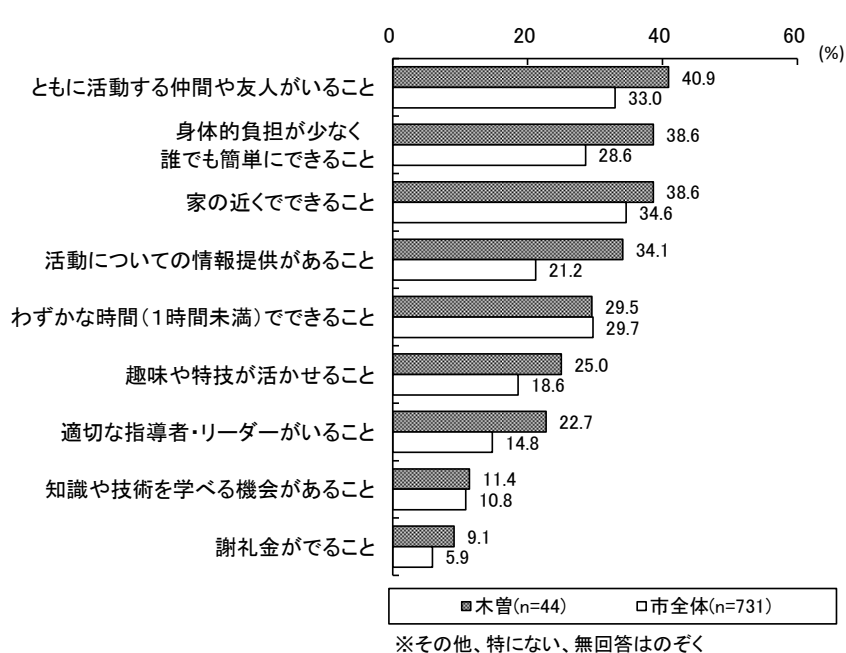
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に理由をたずねたところ、「仕事・家事・介護で忙しいため」が最も多くなっているが、その割合は全体を 7.9 ポイント下回っている。
- また、「興味の持てる活動がない」が全体を 10 ポイント以上、「町内会・自治会に加入していないため」、「活動したいが、情報がない」、「経済的な余裕がない」が全体を 5 ポイント以上上回っている。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件<参加していない人>

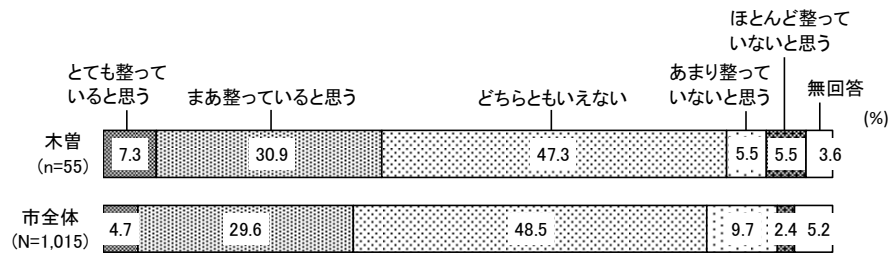
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすい条件をたずねたところ、「ともに活動する仲間や友人がいること」が最も多く、「身体的負担が少なく、誰でも簡単にできること」が続いており、全体では 1 位の「家の近くでできること」は 3 位となっている。
- また、全体 5 位の「活動についての情報提供があること」は 4 位で、全体を大きく上回っている。



(4) 福祉サービス、福祉施策

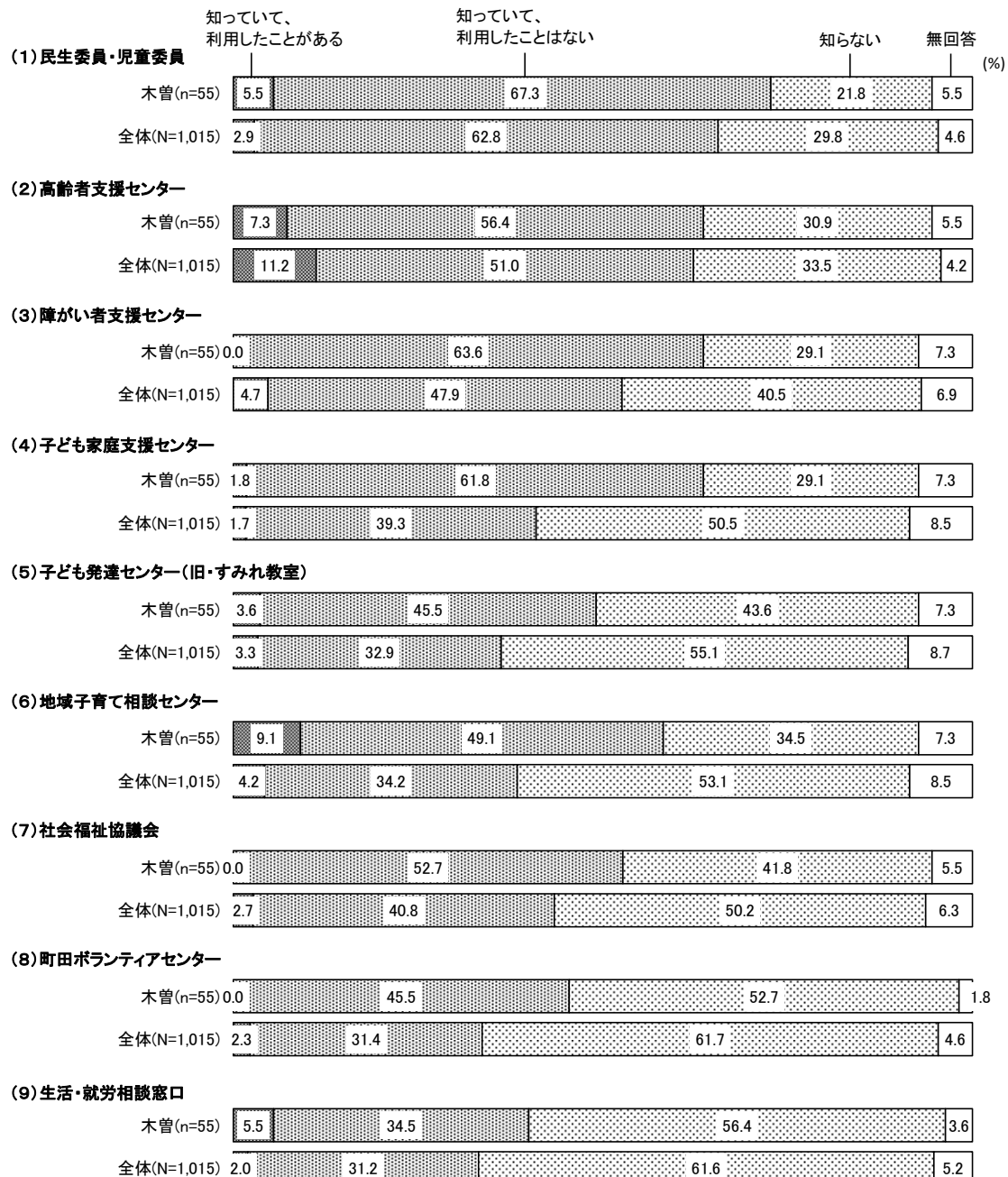
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」と「まあ整っていると思う」を合計した割合が38.2%で、全体に比べて3.9ポイント高くなっている。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度（「知っている、利用したことがある」と「知っている、利用したことはない」の合計）は、すべての項目で全体を上回っており、『高齢者支援センター』以外で全体を5ポイント以上上回っている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（１）実施目的・参加人数・主な参加者

＜実施目的＞

- 2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住まいの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

＜参加人数（グループ数）＞

- 11人（2グループ）

＜主な参加者＞

- 町内会・自治会、民生児童委員、高齢者支援センター。

（２）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【Aグループ】顔が見える、つながりと交流のまち

【Bグループ】メリハリのあるまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

＜子ども・子育て支援＞

- ・子どもが（親が）安心して遊ぶことができる場所。
- ・子どもが自由に遊べるような場所、見守りもありつつ。
- ・親がしつけ等教わる機会、話を聞く場所。
- ・親への教育が必要。

＜若い世代の参加＞

- ・担い手の世代交代が必要。
- ・若い人が自治会に加入する仕組みづくり。

＜団地について＞

- ・リノベーションした団地、若い人来るのでは。
- ・団地をリニューアルして若い世代にも魅力がある場所にしたい。
- ・高層の団地があると住みやすくなるかも。

＜働く場＞

- ・企業誘致して働く場所を増やすと良い。
- ・町田に働ける場所があれば。
- ・職業が体験できる施設があるとよい。

＜多世代交流＞

- ・多世代の人と交流することで学ぶ機会が増える。

＜その他＞

- ・経験を通して学ぶ機会が減ってきている（自然との触れ合いが少ない）。

（出典：各種ワークショップ等の取組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_miraizukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- ・ 2021 年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2022 年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- ・ 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 近隣で子どもが増えた。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢化が進んでいる。 ・ 高齢者の独居が増えた。 ・ 団地の高齢化が進んでいる。 ・ 子どもが少ない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者の孤立。
つながり、意識	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 認知症の人への理解が進んできた <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナでも地域の繋がりを大事にしているところ。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 全体的に情報交換が限られて不安。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ禍で、学校と地域の接点が減ってしまった。 ・ 感染症の影響で地域とのつながりが持ちづらくなったことが1 番大きな変化だと感じています。
活動	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 地域のサークル(体操等)に参加する人が多い。 ・ 過去の行事・活動を振り返ることができた(変わらざるを得ない部分が多いが!!)。 ・ 特に直近2年間は、予算を設備・装備に使う事ができた(防災等)。 ・ コロナ禍により活動が中止している関係で、活動場所となる集会室や団らん室は空きが多くみられる。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 地域のつながりを強めていこうとする取り組みや、地域と学校、関係諸団体の開かれた関係性がとても印象的です。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 子ども向けの地域イベントがない(地域交流がない)。 ・ 子育て世帯の防災訓練の参加が少ない。 ・ 高齢化で退会者が増加(会員の減少)。 ・ 町内会の存在意義が希薄化してしまう。 ・ 活動や交流の機会が減っている。 ・ 長期の新型コロナウイルス感染症対策の影響により地域活動がない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナの影響もあり、地域のイベントが減った。 ・ コロナのため、リアルイベントが軒並みなくなった。 ・ イベントや祭りも無くなり、繋がりが薄れている。 ・ 地域のイベントがなくなり、活気がなくなった。
場所(施設)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 滝ノ沢にカフェができたことで、子育て世帯の母親同士の交流の場ができた。 ・ 公園等の整備が進んでいる。 ・ 木曽あんしん相談室の活動がすばらしい。	
まち・交通	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 町田総合高校が地域探究推進校に指定された。 ・ 地区に新規出店された店舗様もあり、新しい層のお客様が地区に来られるのを期待。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ つぶれたレストランが増えた ・ 側溝の清掃が不十分 ・ 路面標識の修正が不十分 ・ 交通事故が多い ・ 道路混雑、バス減便

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
		<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 交通マナー。
その他	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ ゴミ袋の無料配布の継続	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 中学校がいまだにお弁当、早く給食にしてほしい。 ・ 木曽東、木曽西ともに不審者情報が多く、子どもへの声かけ、連れ去りが怖い。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ禍が長く、良い変化は感じられません。